

「流域治水プロジェクト(仮称)」(背景)

課題 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、**集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者が、流域治水対策を主体的に取組む社会を構築**する必要がある。

対応 ◆河川・下水道管理者等による治水に加え、**あらゆる関係者(国・都道府県・市町村・企業・住民等)**により**流域全体で行う治水「流域治水」へ転換**することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって**効果的・効果的な安全度向上を実現**する。
◆併せて、自然環境が有する多様な機能を活用した**グリーンインフラ**を、**官民連携・分野横断により推進**し、雨水の貯留・浸透を図る。

氾濫を防ぐための対策
～ハザードへの対応～

(しみこませる)※

雨水浸透施設(浸透ます等)の整備
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

(ためる)※

雨水貯留施設の整備、
田んぼやため池等の高度利用
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

ダム、遊水地等の整備・活用

⇒ 国・都道府県・市町村、利水者

(安全に流す)

河床掘削、引堤、放水路、砂防堰堤、遊砂地、
雨水排水施設等の整備
⇒ 国・都道府県・市町村

(氾濫水を減らす)

堤防強化等
⇒ 国・都道府県

※グリーンインフラ関係施策と併せて推進

被害対象を減少させるための対策
～暴露への対応～

(被害範囲を減らす)

土地利用規制、高台まちづくり
⇒ 国・都道府県・市町村、企業、住民

二線堤等の整備

⇒ 市町村

(移転する)

リスクが高いエリアからの移転促進
⇒ 市町村、企業、住民

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策
～脆弱性への対応～

(避難態勢を強化する)

ICTを活用した河川情報の充実
浸水想定等の空白地帯の解消
⇒ 国・都道府県・市町村・企業

(被害を軽減する)

建築規制・建築構造の工夫
⇒ 市町村、企業、住民

(氾濫水を早く排除する)

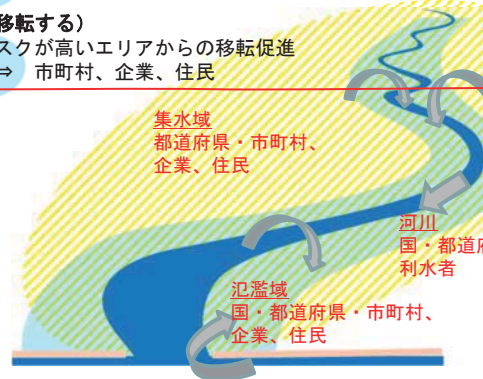
排水門の整備、排水ポンプの設置
⇒ 市町村等

(早期復旧・復興に備える)

BCPの策定、水災害保険の活用
⇒ 市町村、企業、住民

(支援体制を充実する)

TEC-FORCEの体制強化
⇒ 国・企業



河川管理者以外の対策

凡例

河川での対策 集水域での対策 氾濫域での対策

1

「流域治水プロジェクト(仮称)」(概要)

- 現在の整備水準では、気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対応できない。
- そのため、全国の一級水系を対象に、早急に実施すべき具体的な治水対策の全体像を、都道府県や市町村と連携して検討し、「流域治水プロジェクト(仮称)」として国民にわかりやすく提示していく予定。

全国の各河川で「流域治水プロジェクト(仮称)」を公表

【イメージ】〇〇川流域治水プロジェクト

★戦後最大(昭和XX年)と同規模の洪水を安全に流す

★ 浸水範囲(昭和XX年洪水)

(対策メニューのイメージ)

■河川対策

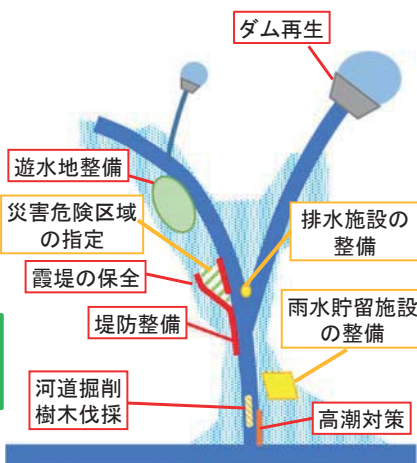
- ・堤防整備、河道掘削
- ・ダム再生、遊水地整備 等

■流域対策(集水域と氾濫域)

- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) 等

■ソフト対策

- ・水位計・監視カメラの設置
- ・マイ・タイムラインの作成 等



流域における対策事例について

(事例)校庭を活用した流域貯留施設



貯留時の様子



(事例)浸水範囲を減らす二線堤の整備

